

「絵本で母子の触れ合いが増え、本好きで感性豊かな子に」

「石井式漢字教室」通信講座

四歳児のお母さん T・Hさん

石井式漢字教育のことをはじめて知ったのは、今から十年ほど前、いちばん上の息子が幼稚園の年中、二番目の娘が二歳の頃のことです。井深大さんが設立された『幼児開発協会』の月刊誌に「本を楽しんで読める子どもを育てる」という内容で紹介されていました。私自身、子どもたちにはぜひ本が好きになってほしいという思いがあったので、すぐに通信コースを申し込みました。

以前から、よく絵本の読み聞かせはしていたので、教材の漢字の絵本が届いたときは、子どもたちは二人とも興味津々。はじめて見る漢字カードにも「ねえ、これ何、何？」とすぐに関心をもってくれましたし、指導法もビデオでわかりやすく解説してあったので、わりとスムーズにはじめることができました。

わが家の場合、寝る前の時間を漢字学習に当てていて、まず絵本の中の漢字をカードにしたものを子どもたちに読ませ、絵本を読み聞かせてあげてから、もう一度漢字カードを読んで寝る、というパターンで続けていました。毎日わずか十分ほどの時間ですが、子どもたちもそして私自身もとても楽しくて、お互いに満足して眠りにつく、という感じでした。

ただ、漢字というのは小さい子のほうが早く覚えてしまうようで、子ども二人と一緒にやっていると、妹が一度で読めた漢字でもお兄ちゃん

のほうは時間がかかったり、というようなことがあります。すると、つい「どうして読めないの？」なんて思ってしまいますが、電話指導で、子どもが「僕、できない」「私、できなかった」と感じることはないよう、そんなときはお母さんが「これはね」とさらっと流してくださいというアドバイスをいただいて、それで楽しく続けていくことができました。

電話指導の先生には、直接漢字教育に関わるだけでなく、子どもの精神面の発達など子育て全般に関して、先輩ママさんとしていろんな相談に親身に乘っていただき、すごく感謝しています。

その後、上の子が小学校一年生のときに、主人の仕事の都合でインドネシアに転勤になり、一年半ほど現地に滞在していたため、石井式漢字教育ともしばらく疎遠になっていました。そして、帰国後に三番目の女の子が生まれたのですが、昔ほど体力がなくなったこともあって、私自身、心にゆとりがなく、精神的に少し追い詰められていた時期でもありました。そうした私の精神状態を反映してか、子どもも笑うことが少なくて……。

そんなとき、ふと上の二人の子どもたちと絵本を読みながら楽しく過ごした情景がよみがえってきて、それで「もう一度漢字教育をやってみよう」と思ったのです。

効果はてき面でした。当時一歳半だったいちばん下の娘は、はじめるとすぐに、漢字カードや絵本を読む時間をとても楽しみにするようになって、表情も明るく生きいきと変わってきたのです。

その娘も、もう幼稚園の年中になりましたが、今ではどこへ行くにも

絵本を持っていくほど、本は大好きです。上の子たちも、高一になる息子は社会や天体のこと、中一の娘のほうは国語や生物と得意分野も違いますし、漫画もよく読みますが、自分が興味のある事柄については、自発的によく本を読んでいます。いわゆる活字アレルギーのようなものは、まったくないようです。

また、三人とも感性とか相手の気持ちを深く思いやる能力は豊かに育ってくれていると思います。たとえば、まだいちばん下の子がお腹の中にいたとき、小学二年生だった真ん中の娘が「私がお腹の中にいたときは、お兄ちゃんが絵本を読んでもらっているのを一緒に聞いていたから、今度は私が赤ちゃんに聞かせてあげる」と言って、絵本を毎晩読んでくれたことがあって、すごく嬉しかったです。こうした内面的な成長も、漢字教育の影響が大きいのではないのでしょうか。

さらに、とかく忙しさに流されて、何かをじっくりとやる時間をとるのが難しい子育ての時期に、漢字教育が一つのメリハリとなって、絵本を挟んで子どもたちと心を通い合わせ、温かい母子関係を築くことができた。そのことが、私自身にとっても何より大きな宝物だと思っています。